【資料2】

乗車人員向上につながる運賃制度の検討

仙台市交通局

1 第4回委員会で掲げた検討の方向性

方向性A:コロナ禍を契機に他交通手段(自家用車等)に逸走した層や、

今まで公共交通を利用していなかった層の利用を促進する。

ターゲット⇒自家用車等を主な交通手段としている方(子連れ家族を含む)

方向性B:観光客やイベント参加者に公共交通の利用を選択してもらう。

ターゲット⇒観光客やイベント参加者等

2 方向性A「自家用車等からの転換」

(1) 土日祝日限定!小学生の市バス・地下鉄運賃無料! 「ハッピー・ファミリー・ライド」を実施します 好評につき第2弾!

1 期間

- 9月14日(土)~12月1日(日)の土日祝日限定
- 2 対象路線
- 市バス・地下鉄全線(楽天シャトルバス、るーぷる仙台を除く)

3 内容

小学生に大人(中学生以上)が同伴して利用する場合、大人1人につき小学生 2人まで運賃無料。

※自家用車利用が大半を占める子供連れの利用促進を目的とすることから、前回に引き続き、小学生のみの利用の場合は対象外

4 利用方法

- (1) 市バスの場合
 - 降車時、大人の方の運賃をお支払いいただく際、運転手に<u>「こども割り」</u>と申し出。
- (2)地下鉄の場合 駅改札の入出場時、窓口の駅務員に「こども割り」と申し出。

★ 前回からの変更点・ポイント

① 実施期間を延長し、2か月半に

前回はゴールデンウィークの実施。期間が短く、制度の浸透が不十分だった と考えている。

期間中の毎土日祝日に利用できることで、制度の浸透を図る。

② 言いやすい略称「こども割り」を追加

「ハッピー・ファミリー・ライド」の制度名称が長いというお客様の声を踏まえ、「こども割り」という略称を追加。

※制度の利用する意思が類推できれば、必ずしも「こども割り」という申し出でなくとも可

運転手や駅務員といった知らない大人に、子ども自身が声をかけるというのも社会経験につながるものと思料。

言いやすい略称を用意することで、お子さん自身で声をかけやすいように配慮。



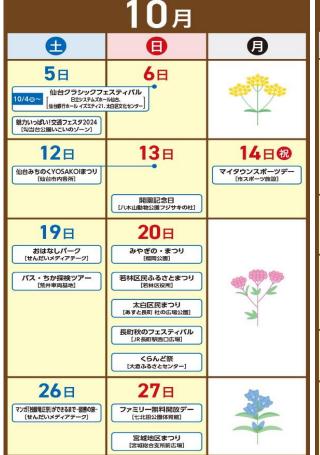
③ 市内イベント情報の提供 「ハッピー・ファミリー・ライド」で出かけよう!イベント情報

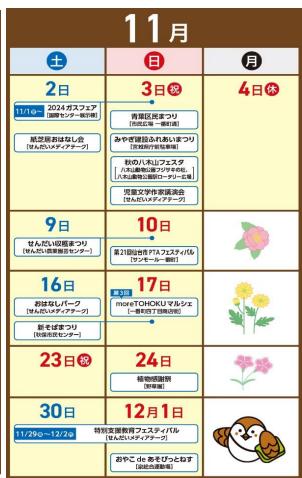
本制度実施期間中に開催されるイベントの一部をカレンダーにまとめ、制度 周知ポスターやチラシにあわせて掲載。











3 方向性B「観光客やイベント参加者の取り込み」

(1)地下鉄24時間券・36時間券の販売(報告)

① 実施目的

各イベントを契機とした来訪者に仙台市内の周遊を促す、地下鉄一日乗車券よりも低廉な地下鉄時間券を販売することで、仙台MaaSの認知度向上と公共交通の利用促進につなげるもの。

- ②販売券種
 - ◆地下鉄24時間券・・・地下鉄全線を24時間(営業時間中に限る)利用できる乗車券 【全日用】大人:500円 小児:250円
 - ◆地下鉄36時間券・・・地下鉄全線を36時間(営業時間中に限る)利用できる乗車券 【全日用】大人:700円 小児:350円
- ③販売期間

令和6年5月21日(火)~令和6年6月9日(日)

④利用開始可能期間

【ポケGO】令和6年5月30日(木) ~ 令和6年6月2日(日)

【絆まつり】令和6年6月7日(金) ~ 令和6年6月9日(日)





⑤販売実績

券種	24/36	大人枚数 (枚)	小児枚数 (枚)	枚数合計 (枚)	販売金額 (円)
「 Pokémon GO Fest 2024:仙台」 地下鉄時間券	24時間券	3,396	203	3,599	1,748,750
	36時間券	1,795	35	1,830	1,268,750
「東北絆まつり 2024仙台」地下鉄 時間券	24時間券	993	147	1,140	533,250
	36時間券	518	30	548	373,100
計		6,702	415	7,117	3,923,850

※販売に係る経費:販売手数料 (6.6%): -258,974円、ポスター等作製費: -99,550円

⑤利用実績の分析

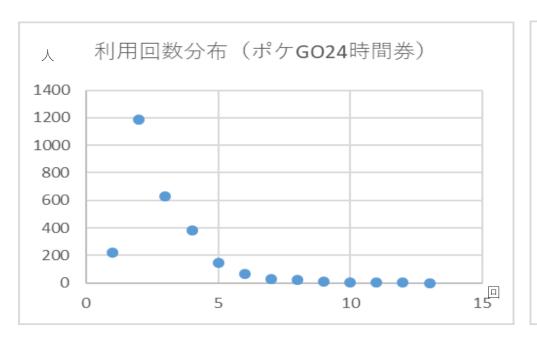
地下鉄時間券の利用回数 ※利用回数 = 改札回数/2 (乗降)

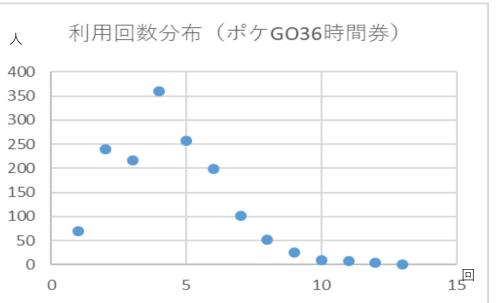
	Pokémon GO Fest		東北絆まつり		合計
	24時間券	36時間券	24時間券	36時間券	
利用回数※累計(回)	9,302	7,635	3,352	2,893	23,182
利用者数(人)	3,599	1,830	1,140	548	7,117
1人当たりの利用回数平均(回/人)	2.58	4.17	2.94	5.28	3.25

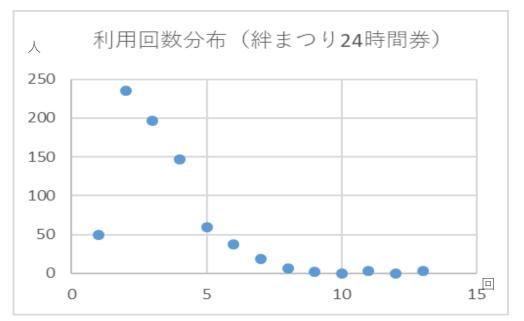
地下鉄時間券については、24時間券、36時間券ともにPokémon GO Festよりも<u>東北絆まつりの方が、1</u>人当たりの利用回数は多かった。

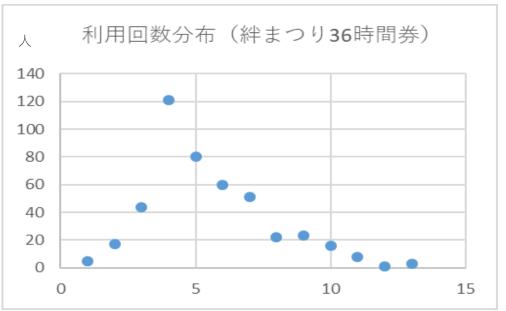
⇒Pokémon GO Festのメイン会場が七北田公園であったこと、東北絆まつりの会場が西公園や東二番丁通り周辺であったことによる影響。

仙台駅を起点とした乗車距離で考えると、七北田公園最寄りの泉中央駅までは、<u>往復(2回利用)だけで24時間券の方がICSFよりお得になる</u>が、大町西公園駅や勾当台公園駅等の場合は、<u>3回以上利用しないと24時間券の方がお得にならない</u>ため、東北絆まつりでは、そもそも3回以上の利用を想定していた利用者のみ購入したものと考えられる。





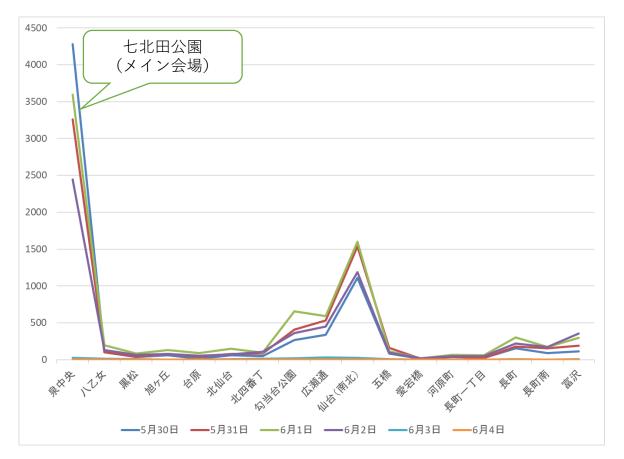




⑥駅ごとの利用状況

Pokémon GO Fest 2024: 仙台

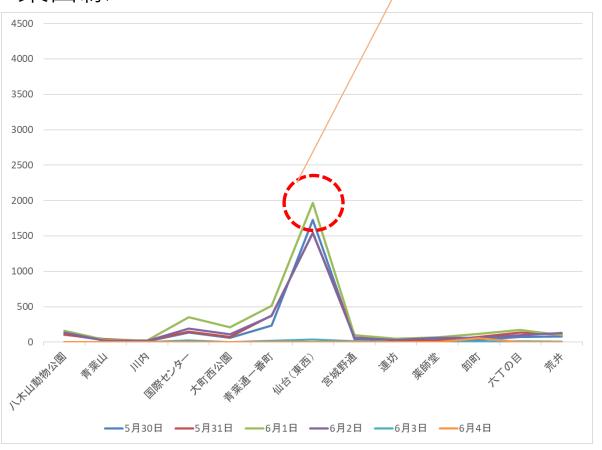
南北線



★JR仙台駅からのアクセス

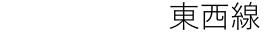
東西線の東改札は、JR仙台駅からの導線で 最も利用しやすい位置にあることから、JR 仙台駅から南北線に乗り換える際に東改札 を利用した方が多かったと考えられる。

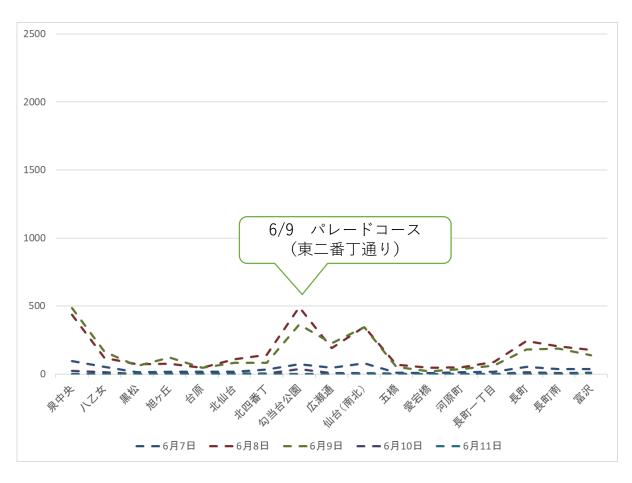
東西線

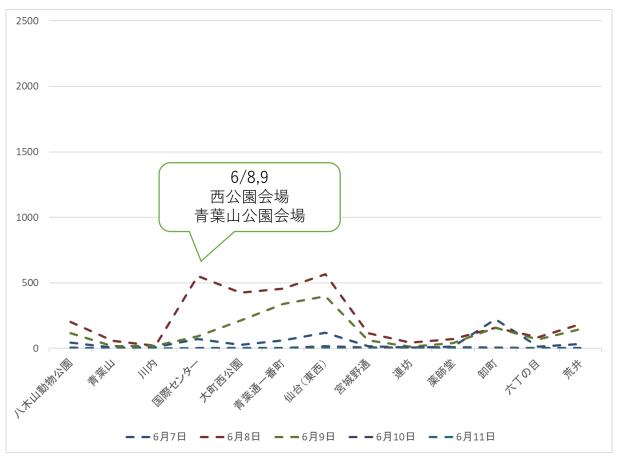


東北絆まつり2024仙台

南北線







※有人改札において集計した乗降人数

⑦分析

【今回上がった課題】

○改札画面を表示する操作が面倒

仙台MaaSはブラウザのみ対応のため、ブラウザによってうまく券が表示されなかったり、改札の度に表示し直すことに不便を感じる声があった。

アプリ化が解決手段の1つではあるが、旅行者等、仙台市バス・地下鉄などを普段利用しない方が利用するには、アプリインストールの手間がかかるなど、利用までのハードルが高いこと、また開発コストも大きいため、仙台MaaS運営協議会では現状はアプリ導入の予定はない。

- ⇒今後、市内住民等の日常使いも想定するデジタルチケットを販売する場合に は、アプリ化の検討も視野に入れるべきではないか。
- ○自動改札が通れない

これまでは販売枚数が少なかったため、あまり大きな問題とはならなかったが、 今回の時間券は、想定以上の販売枚数であり、有人改札の駅務員負担が大きかっ たことから、販売枚数が多く想定される場合には運用方法の検討が必要。

⇒仙台MaaSは二次元コードによる改札も可能であるため、<u>今後、自動改札機に</u> 二次元コードリーダを導入する際共用できるシステムとなれば利便性が高まる。

【販売枚数が伸びた要因】

○価格

地下鉄24時間券は500円、地下鉄36時間券は700円と、既存の地下鉄一日乗車券 (平日840円、土日休620円)と比較しても<u>非常に安価であったことが、購入に繋</u> <u>がったと考えられる</u>。利用者アンケートを見ると、イベントに参加せず、お出か けや仕事等に利用されるケースもみられた。

○イベントとの親和性

特に「Pokémon GO Fest 2024:仙台」については、スマートフォンゲームアプリのイベントであったため、来場者がスマートフォンを所持しているとともに、デジタルチケットなどの扱いにも明るい方が多かったと考えられる。また、メイン会場が七北田公園であり、仙台駅からのアクセスにおいて、地下鉄が最も便利であったことも大きい。

★今後の新券種検討の方向性

⇒ 利用者のニーズ(乗車回数・乗車範囲)と運賃のバランスの検討 地下鉄駅(特に末端駅)周辺で開催されるイベントとの積極的な連携